

私は、旭川市に生まれ、高校卒業まで同市で過ごし、関東の大学を卒業後、平成8年に現在の勤務先に就職しました。就職に際しては、公務員・建設コンサルタント・建設会社等の選択肢がありましたが、北海道出身であること、北海道といえば主産業である農業に携わりたいこと、大学で学んだことを生かせる職場ということで、現在の職場へ入社しました。以来、国営事業地区における調査計画・計画変更・農業水利施設の基本設計及び実施設計、施設機能診断調査等に携わってきました。現在まで、社会情勢や農業情勢等の変化により、自身を取り巻く生活環境の変化はありましたが、これまで、農業土木技術者として仕事を続けてこれたことに感謝する日々です。

私が技術士資格を取得したのは、平成21年度(2009年度)のことです。資格取得後は、業務に関し、管理技術者や照査技術者としての立場や技術提案に関する書類作成、工程管理やリスク管理等、建設コンサルタントの技術者として責任ある仕事をさせていただいてきました。その中にはさまざまな問題や課題がありました。その際、建設コンサルタントの技術者の言え、分析を通じて問題を発見し、そしてその問題を解決する能力、複雑多岐な問題の基本要素について、分析・組立・整理・計量・評価できる能力を磨いてきたものと思っています。

昨今では、働き方改革や新型ウィルスの影響等により、ライフワークや職場環境が変容する状況です。まだまだ、至らぬ点多々ありますが、柔軟に対応し、これからも土地改良事業を通じて北海道の発展に貢献できるよう自己研鑽に励んでいきたいと思っております。

山本 暁史(やまもと あきふみ)

● 農業部門(農業農村工学)

勤務先

株式会社 農土コンサル



→次号は、松本哲也さん(農業部門)

私は帯広の建設コンサルタント会社に勤めており、勤務して以来、主に調査に関する分野に携わっております。現在勤務している会社には、20年以上前に中途採用で入社しており、その前は某廃棄物処理会社(現在は存在していません)に1年ほど勤めておりました。

この廃棄物処理会社では営業を担当して全道を駆け回り、新規顧客の獲得はもちろん、廃棄物処理の手続きや現場作業計画の立案など現業部門の補佐もしておりましたので、この時の経験が今でも役に立っていると感じています。

というのも、先にも述べましたように現在は調査に関する分野で活動しておりますが、調査場所は全道であり、調査するためには様々な申請書類の作成、現地作業計画などが必要なのももちろん、新規顧客獲得のための営業活動も重要な活動のひとつだからです。

このように分野が違う職種の経験も生かしながら調査活動を続けてきた中、さまざまな場面で「君の実力は？」と問われていると感じることが、年を追うごとに増えてきたと感じておりました。

そこで、実力を他者に簡単に認めてもらえる資格として「技術士」取得を考えるようになり、勤務後10年以上たってから、この資格にチャレンジするようになったのを覚えております。当初は、資格取得だけのためにチャレンジしておりましたが、チャレンジすることにより合理的かつ論理的に思考することが普通になり、「君の実力は？」と感じることも少なくなったと感じております。そうなるべくと本当に実力がついたのか、無事、技術士の資格を得ることができました。

現在は、長年携わってきた水質調査や土壌調査の分野などの自然環境に関わる調査から、アスベスト調査や作業環境調査など労働者の活動環境に関わる調査に携わるようになり、日々、新鮮な刺激を受けております。これまで同様、経験してきたことを有効に活用し、新たな分野でも様々な人に信頼してもらえるよう、日々の自己研鑽に努めていきたいと考えている今日この頃です。

山川 雅臣(やまかわ まさおみ)

● 建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社ズコーシャ



→次号は、藤原久司さん(建設部門)